

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護学実習		必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
東福寺 愛実 他	401	narumi.tofukuji	月曜日 15:00~17:00		
授業の目的・概要	保育園実習において健康な子どもの発達段階および発達段階に応じたコミュニケーション方法を学ぶ。その上で、病棟及び外来等の実習を通して様々な疾病や障害、健康レベルにより医療を必要とする子どもと家族を総合的に理解し、健康上および成長発達上の問題解決に向けて、看護の思考と実践のプロセスを展開できる基礎的な知識・技術について学ぶ。看護実践では、子どもの日常生活の世話を含め、治療を受ける子どもの安全・安楽かつ成長発達を促す援助の実際について見学・一部実施を通して理解する。また、子どもにとって必要なプレバレーションやディストラクションを考え、実践する基礎的能力を養えるようにする。				
学習上の助言	健康な子どもと健康障害をもつ子どもとその家族への看護について、実践を通して学ぶことで小児期に必要な関わりや自己の看護観を考える機会となる。小児看護学概論・援助論Ⅰ・援助論Ⅱで習得した知識が重要となるため事前学習を十分にしておくことが望ましい。				
教科書	・小児看護学概論 小児臨床看護総論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2023 ・小児臨床看護各論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2023 [2冊指定]				
参考書	授業で紹介した図書 他				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	小児看護の対象である子どもと家族に関心を向け尊重して関わることができる。	NS(1)(3)(4)			
②	健康な子どもを理解したうえで、健康障害をもつ子どもの状態に応じた関わりを考えることができる。	NS(1)(2)(3)			
③	健康問題をもつ子どもの看護が一部実践できる。	NS(3)			
④	小児に関わる看護師の役割について理解できる。	NS(2)(4)(5)			
⑤	専門職を目指すものとして自覚を持ち責任ある行動がとれる。	NS(4)(5)			
授 業 計 画					
1. 実習目的	子どもとその家族のもつ健康問題を理解し、安全安楽な健康回復・健康の保持増進のために子どもの成長・発達過程に応じた援助を実践する基礎的能力を養う。また、実習全体を通して、小児看護の役割について思考することができる。				
2. 実習目標 (実習要項参照)					
3. 実習内容	1) 健康な子どもの成長・発達の特徴と発達段階に応じたかかわりを保育園実習において学ぶ。 2) 小児科病棟の特徴と病児とその家族にかかわる看護師の役割の実際について実習施設において学ぶ。				
4. 実習時期ならびに期間など	実習期間：3年後期、2週間				
5. オリエンテーション	学内オリエンテーション 日時：実習開始1日目（総合オリエンテーション後、各クールで実施） 場所：健康科学大学看護学部母性小児看護学実習室もしくは指定した教室 内容：実習の方法、実習記録、留意事項の説明、DVD学習 持参するもの：小児看護学実習要項、筆記用具、事前学習レポート				
6. 具体的な実習方法	1) 保育園実習において、地域で生活する子どもと関わることで健康な子どもを理解する。 2) 小児科病棟または小児科外来実習をとおして健康障害をもつ子どもとその家族への看護について理解する。 3) 学内または実習施設でのカンファレンスをとおして学びを共有する。				
7. 単位の認定及び評価	出席状況、実習姿勢、実習記録、レポート等による総合評価				
8. 実習記録および課題レポートの提出	課題レポート並びに実習記録の整理を行い、担当教員に提出する。				
1) 提出期限	実習終了時（第2週金曜日）16:00に指導教員に提出する。				
2) 提出方法 (①は返却予定)	実習オリエンテーション時に配布する「提出物確認表」を基に、紙ファイルに下記の看護記録類を綴じて提出する。				

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

9. レポートについて								
①A4用紙、10.5ポイント、余白上下2.0cm、左右2.5cm、枚数1枚以上								
②表紙不要、テーマは20ポイントとして上部に記入し、学籍番号、氏名はその下、用紙右上に記載								
③オリエンテーション時にテーマを提示する。								
学習課題・学習時間（時間）								
実習期間中は、日々実践評価を行い、各受け持ち園児や患児について発達段階・病態生理・アセスメント・看護実践について修正等を考えて翌日の実習計画に反映する。								
必要時間： 30時間								
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	10	0	60	30	100	
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	20	0	25	
	思考・推論・創造する力	0	5	0	10	0	15	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	5	5	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	5	10	15	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	20	5	25	
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法		
レポート	①	与えられたテーマに対して、学んだことや調べたこと及び自分の考えをレポートに記述する。評価は、知識・技術力を5%、思考・推論・創造する力を5%とする。					コメントをつけて返却する。	
	②							
	③							
	④							
	⑤							
ポートフォリオ	①	提出内容および方法については指定されたようにファイリングすることができる。					ポートフォリオをつけて返却する。	
	②							
	③							
	④							
	⑤							
その他	①	体調を整え積極的に実習に参加し、チームの一員として子どもや患児とその家族に関心をもち実習を行う。また、基礎的知識の学習のもとに保育士や病棟看護師の実践を見学し学ぶ。					カンファレンス時に講評する。	
	②							
	③							
	④							
	⑤							
備 考								
他 担 当 教 員	山本 富士子							
教 員 の 実 務 経 験	担当する看護教員は、看護師として実務経験が5年以上有したものが担当する。							
実 践 的 授 業 の 内 容	この科目は健康な子どもの発達段階や健康障害のある子どもの病態・治療および家族の反応等を理解した上で、学生個人の特性を考慮しながら、実習指導者と連携し実習を進める。保育園では園児の1日の生活を見学し、保育士とともに園児に関わることで子どもの成長発達と成長発達を促す関りを理解する。病棟では小児病棟の特徴や入院児の検査・治療を見学し、受け持ち患児との関りをとおして、病状経過を判断・予測する能力および小児看護の役割を理解する。小児病棟での実務経験のある教員が知識や経験の中で培った子どもとその家族への関わり方や看護技術を学生個々の状況に応じて伝え、臨地実習での学びが深まるように助言・指導を行う。							
そ の 他	・小児看護学実習要項、並びに臨地実習要項（共通）を熟読し、実習に臨んでください。 ・実習中の疑問点などは積極的に質問・相談し早めに解決するようにしてください。							